

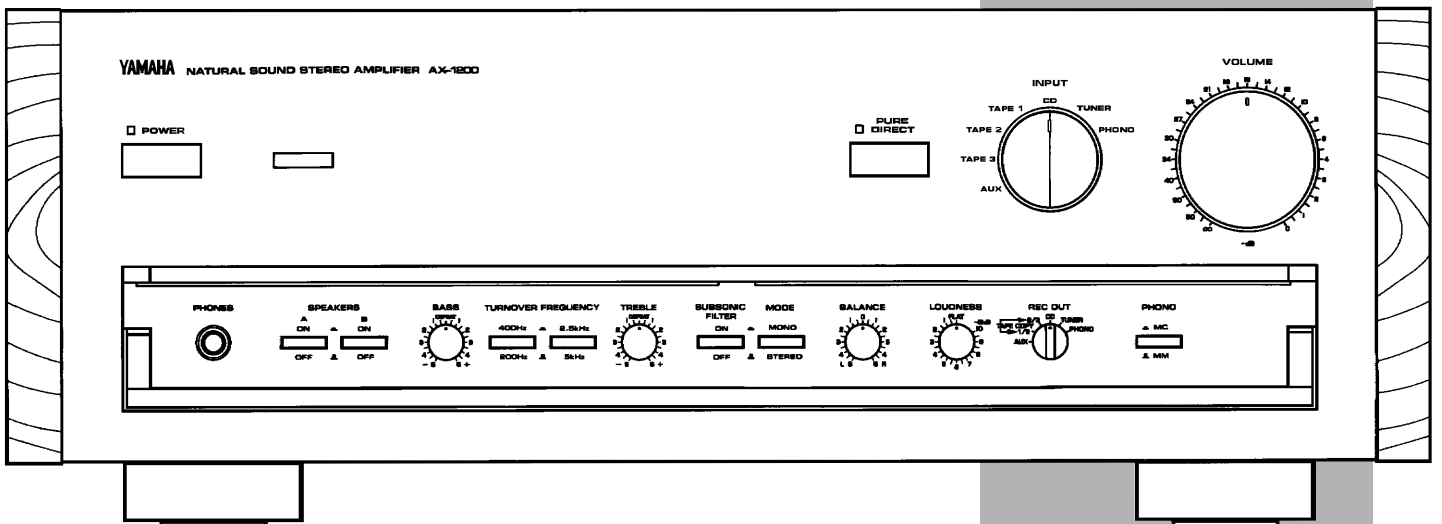
# YAMAHA

# AX-1200

NATURAL SOUND STEREO AMPLIFIER

## 取扱説明書

\*ご使用の前に必ずお読みください。



このたびは、ヤマハステレオプリメインアンプ AX-1200 をお買い求め  
いただきまして、まことにありがとうございます。

AX-1200 の優れた性能を十分に発揮させるとともに、末永くご愛用  
いただくために、この取扱説明書をご使用の前にぜひお読みくださ  
いませう、お願いいたします。

お読みになったあとは、保証書とともに保管してください。

# 目次

使用上のご注意.....	3
各部の名称とはたらき.....	4
接続のしかた.....	7
操作のしかた(再生).....	10
操作のしかた(録音).....	11
タイマー再生、タイマー録音のしかた.....	13

リモコンについて.....	13
故障かなと思ったら.....	14
参考仕様.....	15
ブロックダイアグラム.....	15
ヤマハホットラインサービスネットワーク.....	16

## 特長

### CD 専用高音質バッファアンプ搭載

CD のハイクオリティサウンドをより良い音でお楽しみいただくために、CD プレーヤーからの音楽信号を、極力劣化させないで後段部に送るための、CD 専用高音質バッファアンプを搭載しています。

### ソースのクオリティを生かすピュアダイレクトスイッチ

インプットセクターで選んだソースの音楽信号を、ボリュームコントロール以外の回路をバイパスさせ、パワーアンプ部にダイレクトに送ることによって、ソースのクオリティをそのままピュアに伝えるピュアダイレクトスイッチを装備しています。

### 本格的なセパレート構成

単独使用でも十分な性能のプリアンプ + メインアンプの本格的なセパレート設計。

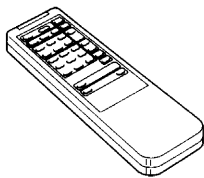
パワーアンプには、HCA 回路を採用し、大出力においてもリニアティを確保しています。

### 豊富な付属機能と多機能な入出力

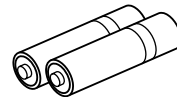
録音やテープダビングに便利な独立レックアウトセクターをはじめ、低音、高音ともそれぞれ別々に調整可能な 2 バンドトーンコントロール機能、不要な超低音のノイズを取り除くサブソニックフィルター、グラフィックイコライザーやサラウンドアンプ等の接続に便利な、プリアウトメインイン端子、さらにAV機器等にも対応できる 7 系統入力と充実した機能を搭載しています。

## 付属品をお確かめください

### リモコンユニット



### 単3乾電池

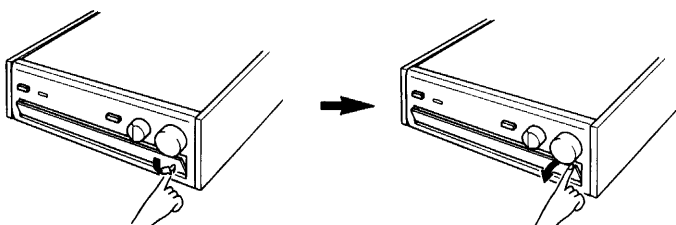


付属品は、以上 2 点あります。

## コントロールパネルの開閉

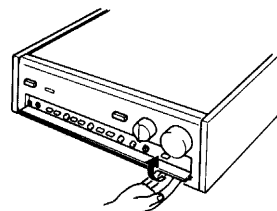
コントロールパネル上のキーを使用しない場合は、パネルを閉じておくことができます。

### 開けるとき



コントロールパネルの下側を指で押すようにして開けます。

### 閉じるとき

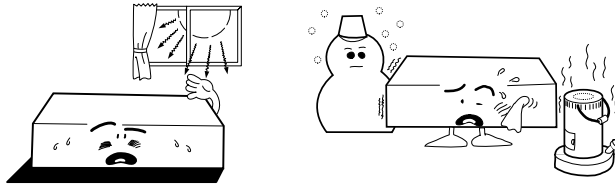


コントロールパネルを下から上に持ち上げるようにして閉じます。

# 使用上のご注意

## 高温 低温はさけて!

窓際や直射日光の当たる場所 暖房器具のそばなど 極端に暑い場所(周囲温度 40 以上) 温度の特に低い場所(周囲温度 -5 以下) 湿度の多い場所(湿度 90%以上)は、さけてください。



## 長期間使用しないときは

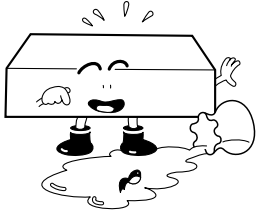
旅行や外出などで留守にされる場合は、安全のために電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

不慮の事故で火災の原因になります。



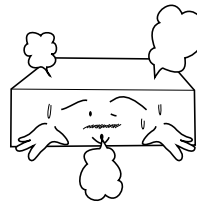
## ほこり 水気をさけて!

ほこり 水気の多い場所はさけてください。本機の上に、花瓶や金魚鉢など水の入ったものは置かないでください。



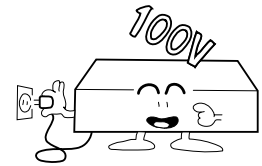
## 設置場所について

本機の放熱を妨げるようなラックの中には設置しないでください。また、不安定な台の上などもさけてください。

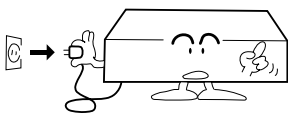


## 国内のみ使用可

家庭用電源コンセント AC100V



## 雷が近づいたら



早めに電源プラグをコンセントから抜いてください。

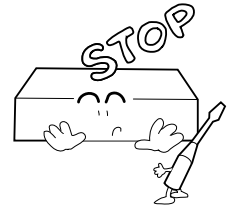
## 薬物厳禁

ベンジン、シンナーなどの溶剤でふくと、変質したり変色します。薬物の使用はさけてください。掃除をするときは、柔らかい布でカラぶきしてください。また接点復活剤は金属部分以外に付着しないようにご使用ください。

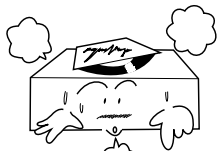


## 開けないで!

内部に手を入れると危険です。ケースは開けないでください。



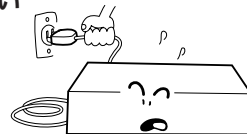
## セット上面の通風孔をふさがない



放熱を妨げないため、セット上面の通風孔の上に敷き物や、レコードなどを絶対に置かないでください。

## 引っぱらないで!

電源コード ピンコードを抜くときは、コードを引っぱらないで必ずプラグを持って抜いてください。

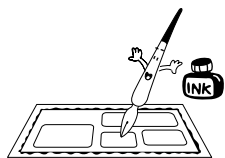


## こわれた?



14ページの「故障かなと思ったら」をご覧ください。

## 保証書の手続きを



お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行ってください。保証書に販売店名、購入日などがないと、保証期間中でも万が一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、十分ご注意ください。



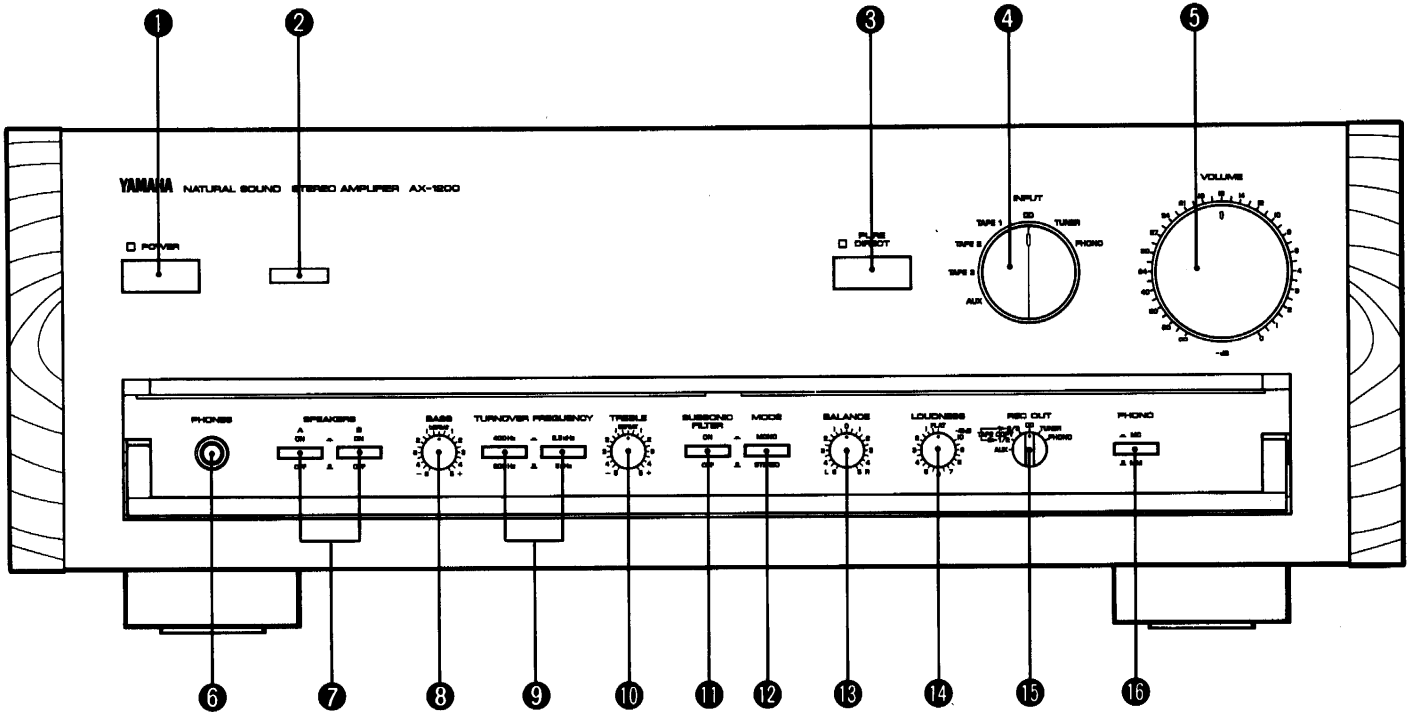
これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

## 音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

# 各部の名称とはたらき

## フロントパネル



### ① 電源スイッチ (POWER)

このスイッチを押すと電源が入り、もう1度押すと電源が切れます。電源が入るとインジケータが点灯します。  
電源を入れるときは、ボリュームコントロールを必ず最小の位置(-)にしておいてください。  
電源を入れてから数秒間は、スピーカー保護回路がはたらき、音は出ません。

### ② リモコン受光部

付属のリモコンからの信号を受ける窓です。

### ③ ピュアダイレクトスイッチ (PURE DIRECT)

このスイッチを押すと、上のインジケータが点灯し、インプットセクターにて選択されたソースの入力信号が、ボリュームコントロールのみを通してパワーアンプ部に直結されます。  
信号経路は、バス、トレブル、ターンオーバーフリクエンシー、ラウドネス、サブソニックフィルター、モード、バランスの各回路がバイパスされ、極めてシンプルな回路構成となるため、劣化の少ないよりピュアな再生をすることができます。  
また、PRE OUT/MAIN IN 端子もバイパスされますので、この端子に接続された機器は、はたらきません。

### ④ インプットセクター (INPUT)

再生するプログラムソースの選択をします。

AUX: レーザーディスクプレーヤー、ビデオデッキなどAUX端子に接続した機器  
TAPE 3: テープデッキ 3  
TAPE 2: テープデッキ 2  
TAPE 1: テープデッキ 1  
CD: コンパクトディスクプレーヤー  
TUNER: チューナー  
PHONO: レコードプレーヤー

### ⑤ ボリュームコントロール (VOLUME)/インジケータ

音量を調整します。右に回すほど音量が大きくなり、左に回すほど音量が小さくなります。ミュートがONのときにはインジケータが点滅します。  
電源スイッチやインプットセクターなどを操作するときや、レコードに針を上げ下げするときは、ボリュームコントロールを必ず最小の位置(-)にしておいてください。

### ⑥ ヘッドホンジャック (PHONES)

ヘッドホンに接続する端子です。  
ヘッドホンのみで聴くときは、スピーカースイッチのA、Bを両方も“OFF”(■)にしてください。  
深夜のプライベートリスニングの際は、ヘッドホンのご使用をお勧めします。

### ⑦ スピーカースイッチ (SPEAKERS)

本機に接続されたスピーカーシステム(A、B)を選択するスイッチです。Aのボタンを押すとA端子に接続されたスピーカーシステムから、Bのボタンを押すとB端子に接続されたスピーカーシステムから音が出ます。A、B両方のボタンを押すとA、B両方のスピーカーシステムから音が出ます。


### ⑧ バスコントロールツマミ (BASS)


低音域を調整するツマミで、右(+に)回すほど低音域が強調され、左(-)に回すほど減衰されます。“DEFEAT”の位置で特性はフラットになります。  
例えば、バスドラムの音に迫力を出したいときに便利です。

## 9 ターンオーバーフリケンシースイッチ (TURNOVER FREQUENCY)


トーンコントロール (バス、トレブル) のターンオーバー周波数を選択するスイッチです。

400 Hz/200 Hz

400 Hz の位置 (  ) を選びますと、バスコントロールツマミによって、400 Hz 以下の低音域が調整されます。

200 Hz の位置 (  ) を選びますと、バスコントロールツマミによって、200 Hz 以下の低音域が調整されます。

2.5 kHz/5 kHz

2.5 kHz の位置 (  ) を選びますと、トレブルコントロールツマミによって、2.5 kHz 以上の高音域が調整されます。


5 kHz の位置 (  ) を選びますと、トレブルコントロールツマミによって、5 kHz 以上の高音域が調整されます。

## 10 トレブルコントロールツマミ (TREBLE)

高音域を調整するツマミで、右 (+) に回すほど高音域が強調され、左 (-) に回すほど減衰されます。“DEFEAT” の位置で特性はフラットになります。



例えば、ハイハットシンバルのような歯切れの良い音を出すときに便利です。

## 11 サブソニックフィルタースイッチ (SUBSONIC FILTER)

スイッチを押して“ON” (  ) にしますと、通常は音楽再生に必要なのない15 Hz 以下の超低域をカットします。レコード盤のそりなどで発生するスピーカーのコーン紙のフラつきによる歪の防止ができます。

## 12 モードスイッチ (MODE)


プログラムソースの再生モードを切り換えるスイッチです。

“STEREO” (  ) の位置では通常ステレオモードで再生され、スイッチを押して“MONO” (  ) の位置にしますとモノラルモードで再生されます。

通常は“STEREO” (  ) にしておきます。

## 13 バランスコントロールツマミ (BALANCE)

左右のスピーカーからの音量バランスを調整するときに使います。ツマミを右(左)に回しますと左(右)の音が小さくなります。

バランス調整をするときは、モードスイッチを押してモノラル再生してから、左右のスピーカーの音が中央に定位するように調整します。調整が完了しましたら、モードスイッチを“STEREO” (  ) に戻します。

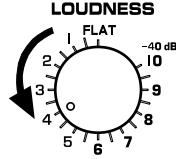
## 14 ラウドネスコントロールツマミ (LOUDNESS)

人間の聴感、音量が小さくなればなる程、低音と高音が聴えにくくなるという特性があります。これを補正するのがラウドネスですが、本機では聴いている音量レベルに応じ、補正に必要な量を連続的に可変することができるので、どの音量レベルでも低域から高域まで、不自然なく再生することができます。

### ラウドネスの操作方法

1  最初にFLATにします。

2  低域から高域までのバランスが最適になるまで音量をあげます。

3  ポリュームはそのままにラウドネスコントロールをお聴きになる音量まで下げます。音量を下げるに従って補正は強調されていきます。

これで音量に応じたラウドネス補正が完了しました。

## 15 レックアウトセクター (REC OUT)

テープデッキなどで録音するソースを選択するスイッチです。本機背面の TAPE 1, TAPE 2, TAPE 3 の各 REC OUT 端子に、インプットセクターによって選択されたプログラムソースとは独立したソース信号が出力されます。

例えば、インプットセクターで TUNER を選択し FM 放送を聴きながら、レックアウトセクターを CD にして CD をテープに録音したり、カセットテープ同士のダビングなどを行うことができます。

PHONO: レコードを録音するとき。

TUNER: FM、AM 放送などを録音するとき。

CD: CD を録音するとき。

TAPE COPY

1▷2/3: テープデッキ 1 からテープデッキ 2、またはテープデッキ 3 に録音するとき。

3▷1/2: テープデッキ 3 からテープデッキ 1、またはテープデッキ 2 に録音するとき。

AUX: ビデオデッキなど、AUX 端子に接続した機器の音を録音するとき。

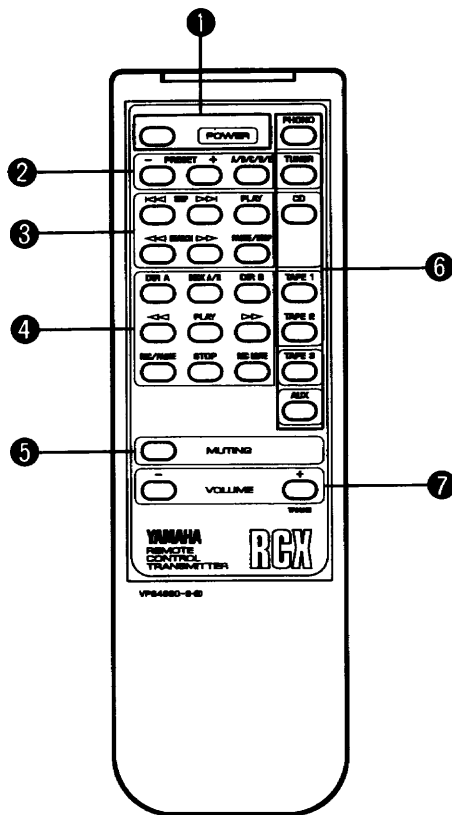
## 16 フォノセクタースイッチ (PHONO)

ご使用になるレコードプレーヤーのカートリッジに合わせて、MM または MC を選びます。

なお高出力 MC カートリッジは、MM の位置を選びます。

フォノセクタースイッチを切り換えるときにポップノイズが出ることがあります。必ずボリュームコントロールを左に回し音量を下げてから、切り換えを行なってください。

## リモコン



### ① 電源キー (POWER)

このキーを押すと電源が入り、もう1度押すと電源が切れます。電源が入ると本機の電源スイッチ上部にあるインジケータが点灯します。電源を入れるときは、ボリュームコントロールを必ず最小の位置(-)にしておいてください。電源を入れてから数秒間は、スピーカー保護回路がはたらき、音は出ません。

### ② チューナー操作キー (TUNER)

本機または、ヤマハのリモートコントロール対応のチューナーを操作するキーです。  
A/B/C/D/E: プリセットのグループ(A/B/C/D/E)を選択します。  
PRESET: プリセットされた放送局を選局します。

### ③ CD操作キー (CD)

ヤマハのリモートコントロール対応のCDプレーヤーを操作するキーです。CDプレーヤーのリモコンに表示されているキー名称と同じはたらきをします。

詳しくは、CDプレーヤーの取扱説明書をご参照ください。

PLAY: 演奏をスタートさせるキーです。  
SKIP <<<: 曲の頭に戻ります。  
SKIP >>>: 次の曲の頭に進みます。  
PAUSE/STOP: 1度押すと一時停止し、もう1度押すと演奏が停止します。  
SEARCH <<<: 早戻しします。  
SEARCH >>>: 早送りします。

### ④ テープデッキ操作キー (TAPE)

ヤマハのリモートコントロール対応のテープデッキを操作するキーです。テープデッキのリモコンに表示されているキー名称と同じはたらきをします。

詳しくは、テープデッキの取扱説明書をご参照ください。

DECK A/B: ダブルデッキのデッキAとデッキBの選択をします。  
DIR A: デッキAのテープ走行方向を選択します。(または、オートリバーステープデッキのテープ走行方向を選択します。)  
DIR B: デッキBのテープ走行方向を選択します。  
PLAY: 再生をスタートします。  
<<<: <<<方向の早送りをします。  
>>>: >>>方向の早送りをします。  
STOP: 再生または、録音の停止をします。  
REC MUTE: 録音中に無録音部分を作るときに押します。  
REC/PAUSE: 録音一時停止状態になります。

### ⑤ ミューティングキー (MUTING)

このキーを押すとボリュームコントロール上のインジケータが点滅し、今まで再生していた音量を1/10(-20dB)にすることができます。もう一度押すと元の音量に戻ります。

電話の応対など、一時的に音量を下げたいときに便利です。

ミュートキーを“ON”にして音量を下げ、ボリュームコントロールで音量を上げているとき、ミュートキーを“OFF”にすると、急に10倍の音量になりますのでご注意ください。またスピーカーに悪影響を与えますのでご注意ください。

### ⑥ インプットセクターキー

再生するプログラムソースの選択をするキーです。

PHONO: レコードプレーヤー  
TUNER: チューナー  
CD: コンパクトディスクプレーヤー  
TAPE 1: テープデッキ1  
TAPE 2: テープデッキ2  
TAPE 3: テープデッキ3  
AUX: レーザーディスクプレーヤー、ビデオデッキなどAUX端子に接続した機器

### ⑦ ボリュームコントロールキー (VOLUME)

音量を調整します。“+”キーを押すと音量が大きくなり、“-”キーを押すと小さくなります。キーを押すと同時に、フロントパネルのボリュームコントロールが連動して回ります。

電源スイッチやインプットセクターなどを操作するときや、レコードに針を上げ下げするときは、必ず音量を最小に(フロントパネルのボリュームコントロールが“-”の位置になるように)してください。

# 接続のしかた

接続の際は、本機および接続する機器の電源を必ず“OFF”にしてから行ってください。

接続する機器によっては端子名が異なることがあります。

接続する機器の取扱説明書もあわせてご参照ください。

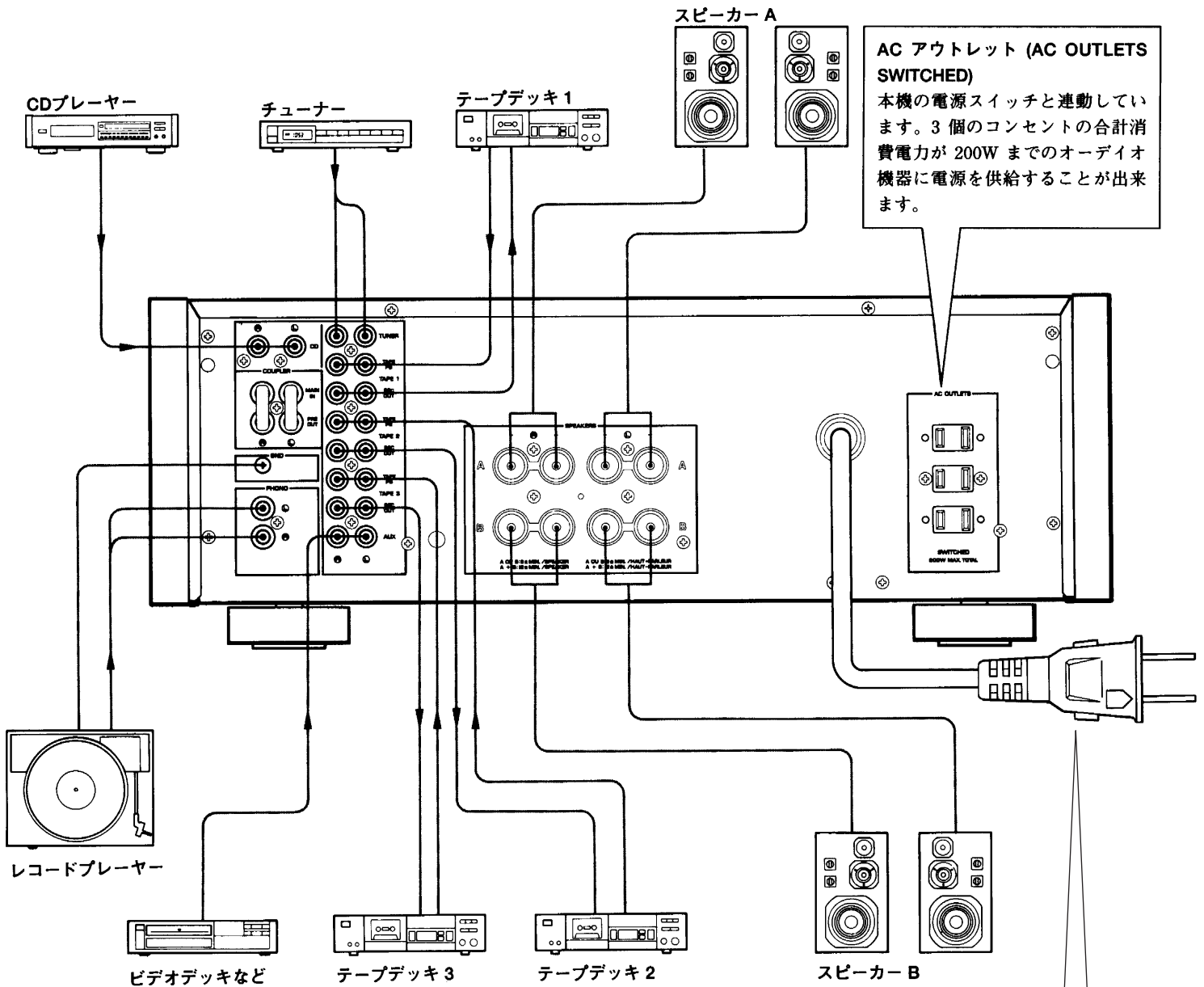
入・出力端子を接続する場合、市販のピンプラグコードをご用意ください。

接続するときは、各機器のL(左チャンネル)、R(右チャンネル)を確認し、また、スピーカー接続の場合は、極性(+、-)を間違えないよう確認して、確実に接続してください。

接続端子に接点復活剤を塗布することはさけてください。端子及び周辺の樹脂部分が溶けたり変質したりするすることがあります。接続端子を清掃するときは無水アルコールで拭いてください。

接続に誤りが無いことを確認してから、本機の電源コードをACコンセントに接続してください。

本機が他の機器(テレビ、チューナー)などに影響を与えるようなときは、本機とその機器に影響の出ない距離まで離してください。



## 電源コード

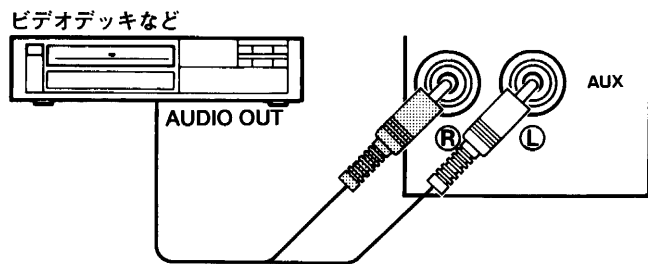
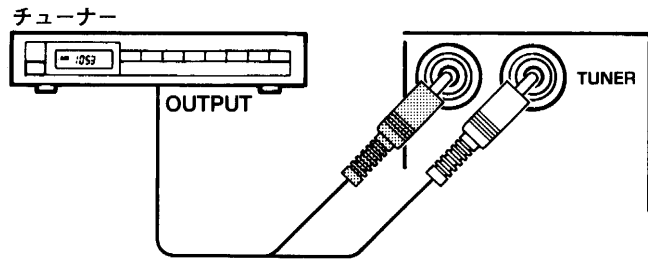
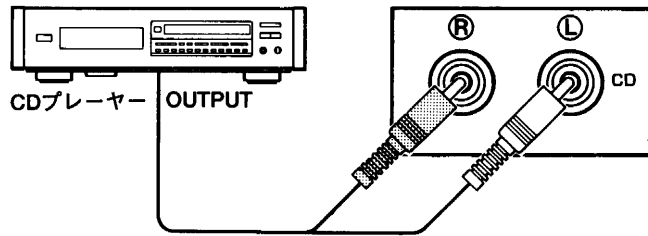
電源プラグはAC100Vの家庭用コンセントに接続してください。

本機の消費電力は260Wです。

本機の電源コードには、極性表示(電源トランスの巻き始め側をプラグに▶マークで表示)がされています。これは各機器の電源の極性を合わせるためです。家庭用のコンセントに接続する場合、極性表示のある方を家庭用コンセントの長い方の穴に合わせて接続してください。

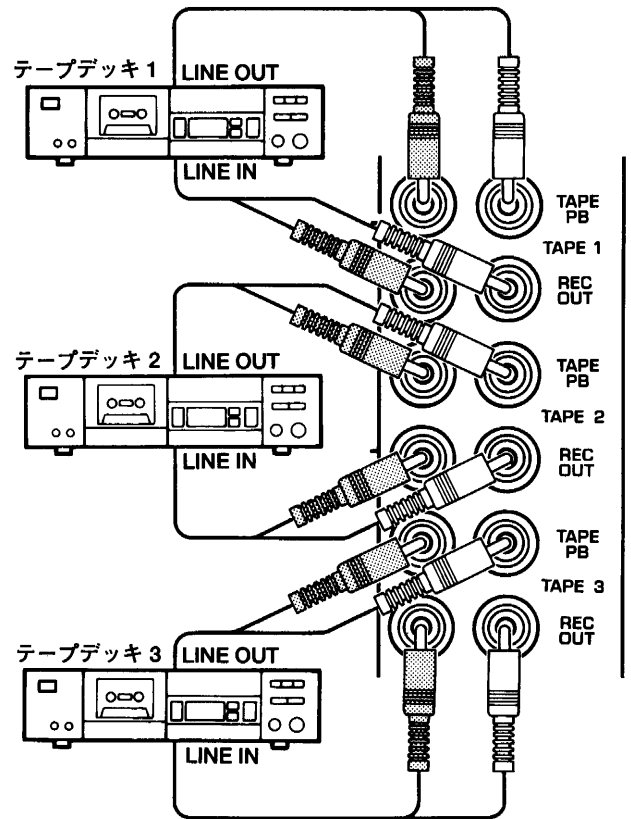
### CDプレーヤー、チューナー、その他ビデオデッキなどの接続

CDプレーヤーは CD 端子に、チューナーは TUNER 端子に、その他ビデオデッキなどの音声出力を AUX 端子に、それぞれ L, R を正しく確実に接続します。



### テープデッキの接続

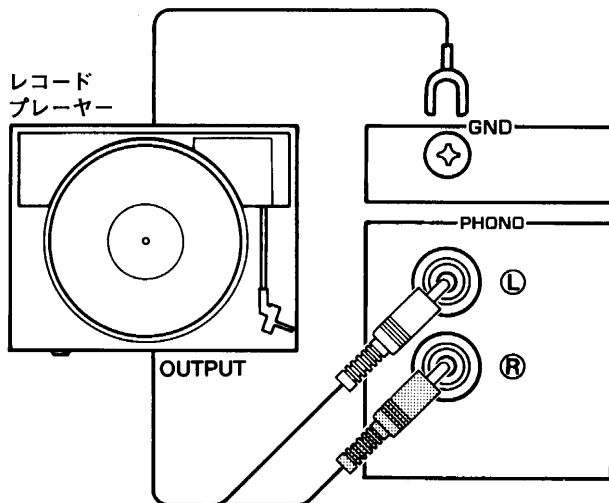
デッキの LINE OUT (PLAY) 端子と本機の TAPE PB 端子を、デッキの LINE IN (REC) 端子と本機の REC OUT 端子をそれぞれ L, R を正しく接続します。本機では、TAPE 1、TAPE 2、TAPE 3 端子にテープデッキが3台まで接続できます。



### レコードプレーヤーの接続

レコードプレーヤーの出力コードを PHONO 端子 L, R にしっかり差し込んでください。アース線は GND 端子に確実に接続します。

レコードプレーヤーによっては、まれにアース線を GND 端子に接続しない方がハムノイズが減少する場合があります。





## スピーカーコードの接続

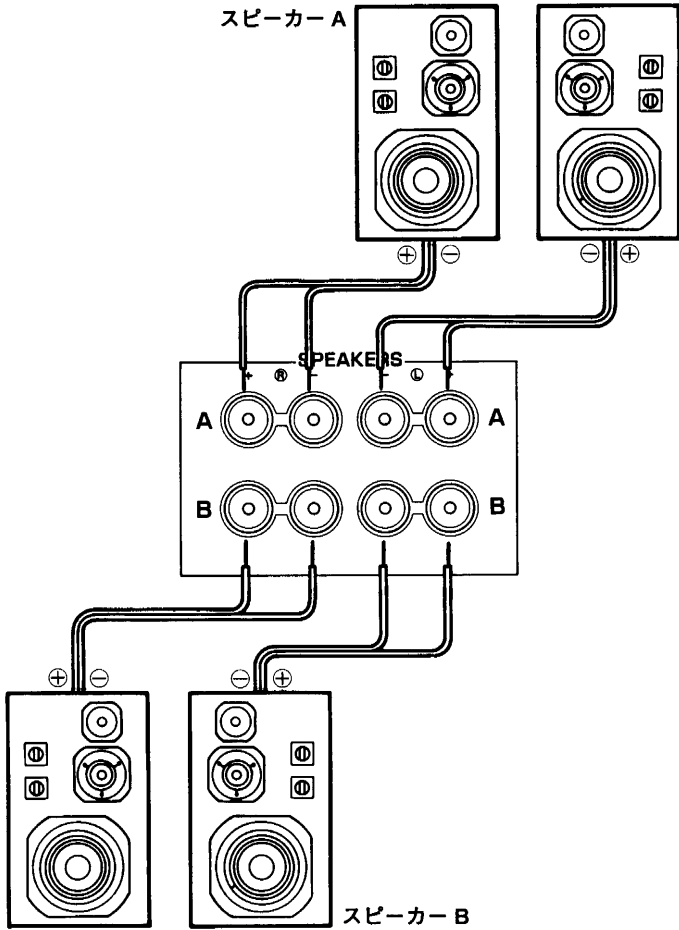
SPEAKERS A の R 側端子に右側スピーカーを、L 側端子に左側スピーカーを接続します。

アンプ側の + 端子からスピーカーの + 端子へ、アンプ側の - 端子からスピーカーの - 端子へ極性を間違いないよう確認して、スピーカーコードを接続します。

極性を間違えた場合、音が中央に定位せず、ステレオ感のない低音のそこなわれた、不自然な再生音となることがあります。

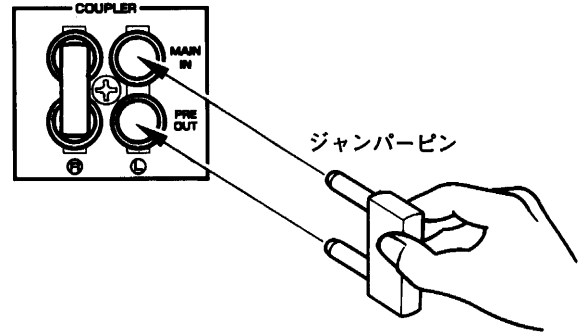
SPEAKERS B にも、SPEAKERS A と同様にもう一組のスピーカーを接続することができます。

スピーカー A, B 単独使用の場合は、インピーダンスが 6 以上のものを、2 組同時使用の場合は、各インピーダンスが 12 以上のものを使用してください。それ以下のインピーダンスのスピーカーを使用すると、本機が故障するおそれがあります。

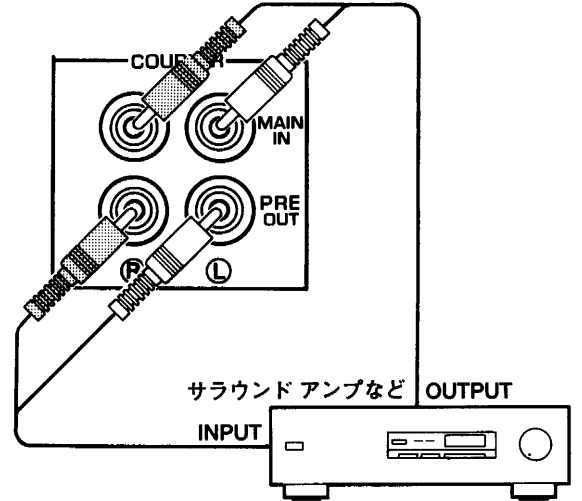


## サラウンドアンプ、グラフィックイコライザーなどの接続 (PRE OUT/MAIN IN 端子について)

PRE OUT 端子と MAIN IN 端子を接続しているジャンパーピンを抜くことにより、本機はプリアンプとメインアンプに独立して分れます。サラウンドアンプ、グラフィックイコライザーなどをこの端子に接続した場合、本機のボリュームコントロール 1 つでオーディオシステム全体の音量調節が可能となります。



接続は、PRE OUT 端子を相手機器の音声入力端子に、MAIN IN 端子を相手機器の音声出力端子にそれぞれ接続します。(接続の際は、接続する機器の取扱説明書をあわせてご参照ください。)



PRE OUT/MAIN IN 端子をご使用にならない場合は、必ずジャンパーピンを差し込んでおいてください。ジャンパーピンが抜けていますと音は出ません。

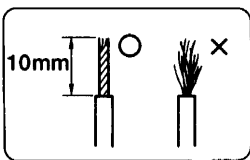
PRE OUT/MAIN IN 端子に他の機器を接続してご使用になる場合は、必ずフロントパネルのピュアダイレクトスイッチを "OFF" にしてください。

本機をプリアンプとしてご使用になる場合は、本機の各機能を使用することができます。(ヘッドホンジャックならびにスピーカースイッチは、使用することはできません。)

本機をメインアンプとしてご使用になる場合は、本機の各機能は使用できません。音量調整などは本機に接続されたプリアンプ側で行なってください。(ヘッドホンジャックならびにスピーカースイッチは、使用することができます。)

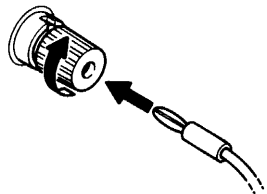
### スピーカーコードの接続

スピーカーコードの先端の絶縁部を 10 mm 位はがしてください。芯線がバラけてショートのしないよう、指でしっかりよじってから、スピーカー端子の穴に差し込み、締めつけてください。また芯線部分が穴からはみ出していないかどうかを確認してください。

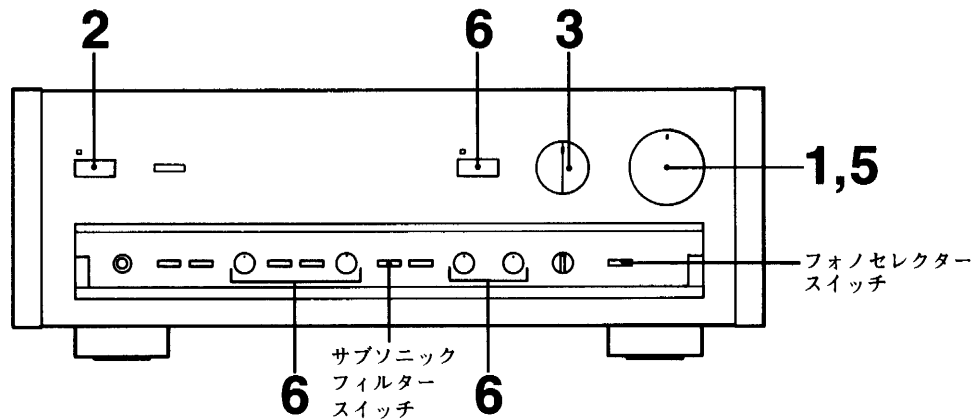


### バナナプラグの場合

バナナプラグを使用する場合は、端子を強くしめてから差し込んでください。

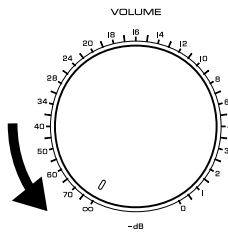


# 操作のしかた (再生)

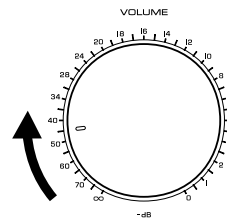


## 再生をする場合

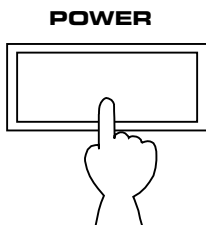
- 1** 本機のボリュームコントロールを “ - ” (最小) に合わせます。



- 5** ボリュームコントロールで音量の調節をおこないます。

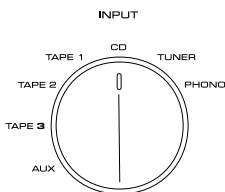


- 2** 本機ならびに、各機器の電源を “ ON ” にします。



- 6** お好みに応じて、バス、トレブル、ターンオーバーフリクンシー、バランス、ラウドネス、ピュアダイレクトを使って音質調節をしてください。

- 3** インプットセクターで、再生したいプログラムソースの選択をします。

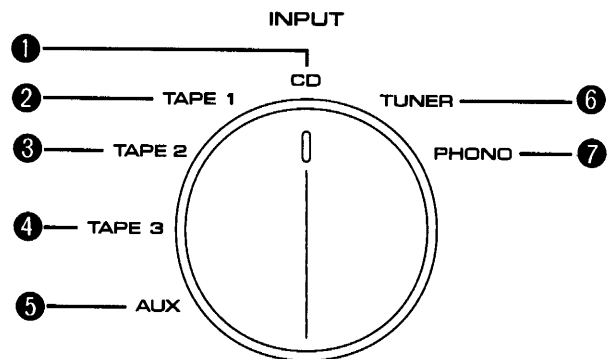


### レコードプレーヤーを再生する場合

使用するカートリッジに合わせて、フォノセレクタースイッチを、MM、または MC にセットしてください。  
スピーカー保護のため、サブソニックフィルタースイッチを “ ON ” にして使用することをおすすめします。

## プログラムソースの選択のしかた

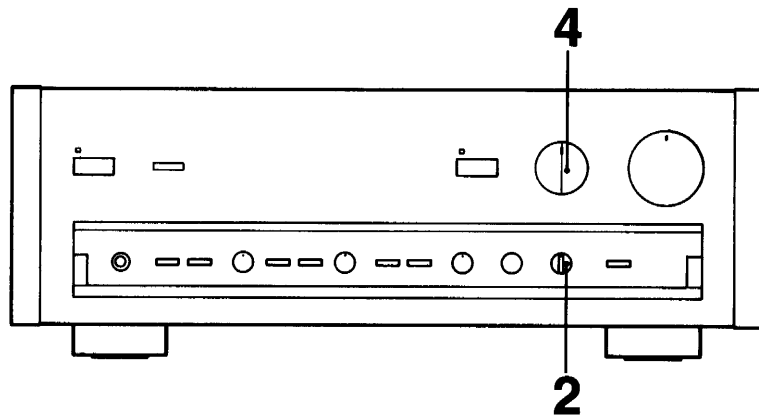
インプットセクターを、再生するプログラムソースの位置に合わせます。



- 4** インプットセクターで選択したプログラムソースの再生をします。

- ① CDプレーヤーを再生するとき。
- ② TAPE 1 端子に接続したテープデッキを再生するとき。
- ③ TAPE 2 端子に接続したテープデッキを再生するとき。
- ④ TAPE 3 端子に接続したテープデッキを再生するとき。
- ⑤ AUX 端子に接続した機器を再生するとき。
- ⑥ チューナーを再生するとき。
- ⑦ レコードプレーヤーを再生するとき。

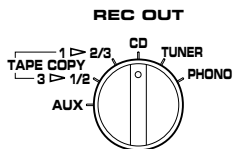
# 操作のしかた (録音)



## 録音をする場合

**1** P.10「再生をする場合」の、手順1,2と同じ操作をします。

**2** 録音したいプログラムソースを、レックアウトセレクターで選択します。



**3** テープデッキを操作して録音を開始すると同時に、録音するプログラムソースの再生をスタートします。

**4** 録音内容をモニターする場合は、録音しているプログラムソースをインプットセレクターでえらびます。

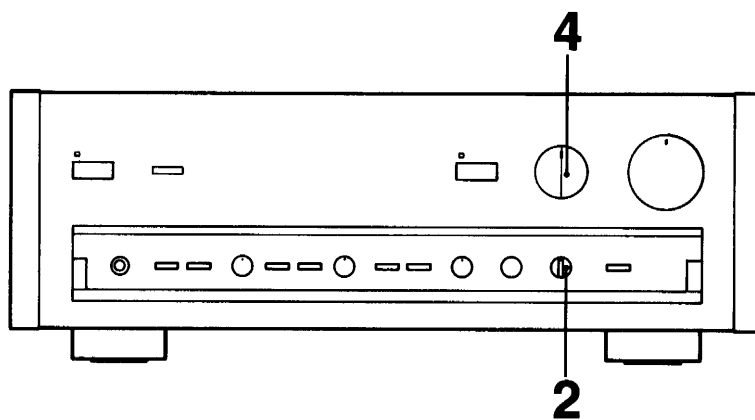
以上の操作を行なう際、バス、トレブル、ターンオーバーリクエシー、バランス、ラウドネス、ピュアダイレクトの設定や調節は、録音に影響を与えません。

## レックアウトセレクターの使い方について

インプットセレクターで選んだプログラムソースを聴きながら、別のプログラムソースをレックアウトセレクターで選んで録音することができます。

	インプットセレクター	レックアウトセレクター
CDを聴きながら、レコードを録音する。		
レコードを聴きながら、チューナーの放送を録音する。		

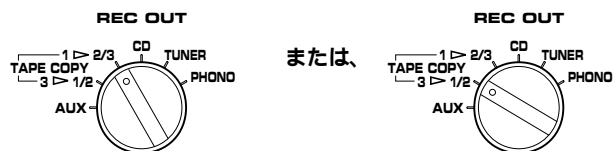
この他にもインプットセレクターとレックアウトセレクターの組み合わせにより、いろいろなプログラムソースを二重に楽しむことができます。



## テープダビングをする場合

**1** P.10「再生をする場合」の、手順1,2と同じ操作をします。

**2** レックアウトセクターをTAPE 1 ▷ 2/3 または、  
TAPE 3 ▷ 1/2 にセットします。



**3** テープデッキの再生ならびに、録音をスタートします。

**4** 録音内容をモニターする場合は、録音しているプログラムソースをインプットセクターでえらびます。

以上の操作を行なう際、バス、トレブル、ターンオーバーフリクエシー、バランス、ラウドネス、ピュアダイレクトの設定や調節は、録音に影響を与えません。

## レックアウトセクターの使い方について

レックアウトセクターの位置	録音できるテープデッキ
<p>TAPE 1 ▷ 2/3 の場合</p>	<p>テープデッキ1から、テープデッキ2または、テープデッキ3に録音が可能です。(テープデッキ2とテープデッキ3に同時に録音することも可能です。)</p>
<p>TAPE 3 ▷ 1/2 の場合</p>	<p>テープデッキ3から、テープデッキ1または、テープデッキ2に録音が可能です。(テープデッキ1とテープデッキ2に同時に録音することも可能です。)</p>

テープデッキ2から、他のテープデッキへの録音はできません。

# タイマー再生、タイマー録音のしかた

本機を市販のオーディオタイマーと組み合わせることにより、タイマー再生、タイマー録音をすることができます。

## タイマー再生について

### 接続のしかた

- 1 本機の電源プラグをオーディオタイマーに接続します。
- 2 本機の AC アウトレットにタイマー再生する機器の電源プラグを接続します。[このとき本機に接続する機器の消費電力が、AC アウトレットの供給電力(200W)を越えないようにご注意ください。]

### 操作のしかた

- 1 すべての機器の電源を“ON”にします。
- 2 本機のインプットセクターで、タイマー再生する機器を選択します。
- 3 本機のボリュームを適当な音量に調整します。
- 4 タイマー再生の開始時間(必要ならば終了時間も)をオーディオタイマーでセットします。これでご希望の時間になりますと、タイマー再生が開始されます。

## タイマー録音について

### 接続のしかた

- 1 本機の電源プラグをオーディオタイマーに接続します。
- 2 チューナーなど録音する機器およびデッキの電源プラグを本機の AC アウトレットに接続します。[このとき本機に接続する機器の消費電力が、AC アウトレットの供給電力(200W)を越えないようにご注意ください。]

### 操作のしかた

- 1 すべての機器の電源を“ON”にします。
- 2 本機のレックアウトセクターで、録音するソースを選択します。
- 3 チューナーなど録音する機器およびデッキを操作して、録音できるようにセットします。
- 4 録音の開始時間および終了時間をオーディオタイマーでセットします。

これで予定の時間になりますと、タイマー録音をすることができます。

タイマー録音時に音出しが不要の場合は、スピーカースイッチを“OFF”にしておきます。

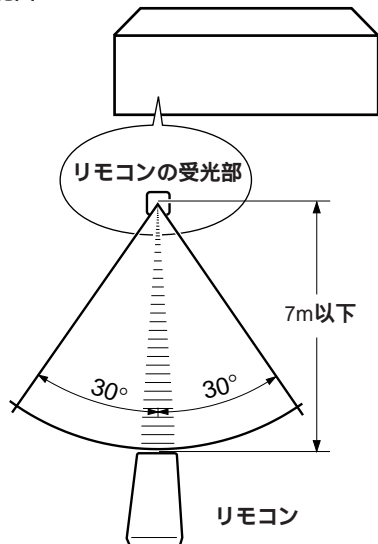
ご使用になる機器やオーディオタイマーにより操作方法や接続方法が異なることがありますので、それらの取扱説明書もあわせてご参照ください。

本機はマイコンを使用しているため、メモリー保持期間は約2週間となっています。従ってそれ以上先のタイマー再生、タイマー録音はできません。

# リモコンについて

リモコン信号は直進性の高い赤外線を使っています。リモコンと本体受光窓の間に遮蔽物が入らないようご注意ください。

## リモコン操作可能範囲



## 付属のリモコンは...

本機専用です。近くに他の機器が設置されていると、誤動作を起こすことがあります。リモコンによって誤動作をする機器があるときは、その機器の受光部をふさぐか、設置場所を変えてください。

ていねいに扱ってください

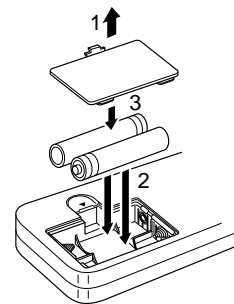
お茶や水をこぼしたり、落としたりしないでください。ストーブのそばや風呂場など、温度・湿度の高いところにも置かないようご注意ください。

リモコン受光部に、直射日光や照明器具(インバータ蛍光灯など)の強い光が当たらないようご注意ください

強い光が当たっていると、リモコンが動作しなかったり、働きにくくなります。

## 電池交換のしかた

- 1 リモコンに裏のふたをはずします。
- 2 単3型(SUM-3)乾電池を2個、プラス(+)とマイナス(-)の向きを、リモコンのケースの表示どおりに正しく入れてください。
- 3 電池をセットしましたらカチッと音がするまでふたを閉めます。



## 電池交換の時期は?

リモコン操作できる距離が短くなってきたら電池が消耗しています。このときは、2本とも新しい電池に交換してください。

## 乾電池についてのご注意

- ・単3乾電池をご使用ください。
- ・新しい電池と、一度使用したものを混ぜて使用しないでください。
- ・種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- ・電池のプラス(+)とマイナス(-)を金属片で直接つなぐこと(ショート)はしないでください。
- ・長い間リモコンを使わないときは、電池を取り出しておいてください。
- ・万一液もれが起こったときは、電池入れについた液をよく拭き取ってから、新しい電池を入れてください。

# 故障かなと思ったら

本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められました場合は、本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点宛、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
電源スイッチを押しても電源が入らない	電源プラグの接続が不完全	電源プラグをコンセントにしっかり差し込みなおしてください
音が出ない	インプットセレクターが、再生したいプログラムソースの位置にセットされていない	インプットセレクターを、再生したいプログラムソースの位置にセットしてください
	スピーカースイッチがOFFになっている	スピーカースイッチでスピーカーが接続されている端子を選択してください
	接続が不完全	接続を確認してください
片チャンネルの音がでない	バランスコントロールツマミがどちらか一方に回し切られている	バランスコントロールツマミで左右の音量バランスを調整してください
	接続が不完全	接続を確認してください
低音のない不自然な再生音で、音像が安定しない	アンプとスピーカーの極性 (+, -) が合っていない	アンプとスピーカーの極性 (+, -) を合わせて接続しなおしてください
ハム音がでる	ピンプラグコードの接続が不完全	ピンプラグをしっかりと差し込みなおしてください
	レコードプレーヤーのアースコードを接続していない	アースコードを本機の GND 端子に接続してください
MC カートリッジの音が小さい	フォノセレクタースイッチが MM の位置になっている	フォノセレクタースイッチを MC の位置にセットしてください
ボリュームコントロールを回しても音量があまり上がらない	ミュートキーが ON になっている (ボリューム上のインジケータが点滅している)	一度ボリュームコントロールを左いっぱいに戻し、音量を下げてからミュートキーを OFF にし、再度音量を調整してください
	ラウドネスコントロールがはたらいている	ラウドネスコントロールツマミを FLAT の位置にセットしてください
バスコントロールツマミ、トレブルコントロールツマミがはたらかない	ピュアダイレクトスイッチが ON になっている	ピュアダイレクトスイッチを押して OFF にしてください
リモコン操作ができない	乾電池が消耗している	乾電池を 2 本とも交換してください
	リモコンの操作距離、角度が不適当	本体のリモコン受光部に対して 7m 以内、角度 30 度以内の範囲で操作してください
	リモコン受光部に強い日光や照明 (インバータ蛍光灯など) が当たっている	受光部に強い光が当たらないように置き場所や方向、または照明の位置をくふうしてください

# 参考仕様

**定格出力**

8 (20 Hz ~ 20 kHz, 0.01% THD) .....145W+145W

6 (20 Hz ~ 20 kHz, 0.02% THD) .....185W+185W

**ダイナミックパワー (IHF ダイナミックヘッドルーム測定による)**  
(8 / 6 / 4 / 2 ) .....220W/290W/360W/460W

**パワーバンド幅 (0.03% THD, 72.5W/8 )** .....10 Hz ~ 50 kHz

**ダンピングファクター (1 kHz, 8 )** .....250 以上

**入力感度/入力インピーダンス**

PHONO MC .....160 μV/220

PHONO MM .....2.5 mV/47 k

CD/TUNER/TAPE/AUX .....150 mV/47 k

MAIN IN .....1V/47 k

**最大許容入力 (1 kHz, 0.01% THD)**

PHONO MC/MM .....13.5 mV/170 mV

**出力電圧/出力インピーダンス**

REC OUT .....150 mV/2.2 k

PRE OUT .....1V/1.8 k

**最大出力**

PRE OUT (20 Hz ~ 20 kHz, 0.02% THD) .....6.5V

**ヘッドホン出力/出力インピーダンス**

0.015% THD, RL=8 .....1.05V/220

**周波数特性 (20 Hz ~ 20 kHz)**

CD/TUNER/TAPE/AUX .....0 ± 0.5 dB

MAIN IN .....0 ± 0.5 dB

**RIAA 偏差 (20 Hz ~ 20 kHz)**

PHONO MC/MM .....± 0.5 dB / ± 0.3 dB

**全高調波歪率 (20 Hz ~ 20 kHz)**

PHONO MC REC OUT (3V) .....0.007%

PHONO MM REC OUT (3V) .....0.003%

CD/TUNER/TAPE/AUX PRE OUT (1V) .....0.004%

CD/TUNER/TAPE/AUX SP OUT (72.5W/8 ) .....0.007%

MAIN IN SP OUT (72.5W/8 ) .....0.005%

**SN 比 (IHF A ネットワーク、入力ショート時)**

PHONO MC (250 μV) .....69 dB

PHONO MM (2.5 mV) .....86 dB

CD/TUNER/TAPE/AUX (ビュアダイレクトスイッチ ON 時) .....110 dB

**残留ノイズ (IHF A ネットワーク)**  
(ビュアダイレクトスイッチ ON 時) .....35 μV

**チャンネルセパレーション (VOL - 30 dB)**

PHONO MC (入力ショート時) .....70 dB

PHONO MM (入力ショート時) .....70 dB

CD/TUNER/TAPE/AUX (5.1 k ) .....65 dB

**トーンコントロール**

BASS .....可変幅、± 10 dB (20 Hz)

TREBLE .....可変幅、± 10 dB (20 kHz)

ターンオーバー周波数、200 Hz, 400 Hz

ターンオーバー周波数、2.5 kHz, 5 kHz

**フィルタ特性 (サブソニックフィルター)** .....15 Hz, - 18 dB/oct

**コンティニューアスラウドネスコントロール**

最大補正量 (聴感補正カーブによる) .....- 40 dB (1 kHz)

**オーディオミュティング** .....- 20 dB

**ギャングエラー (0 ~ - 60 dB)** .....2 dB

**定格電源電圧、周波数** .....AC 100V, 50/60 Hz

**消費電力** .....260W

**AC アウトレット (連動) × 3** .....トータル 200W MAX

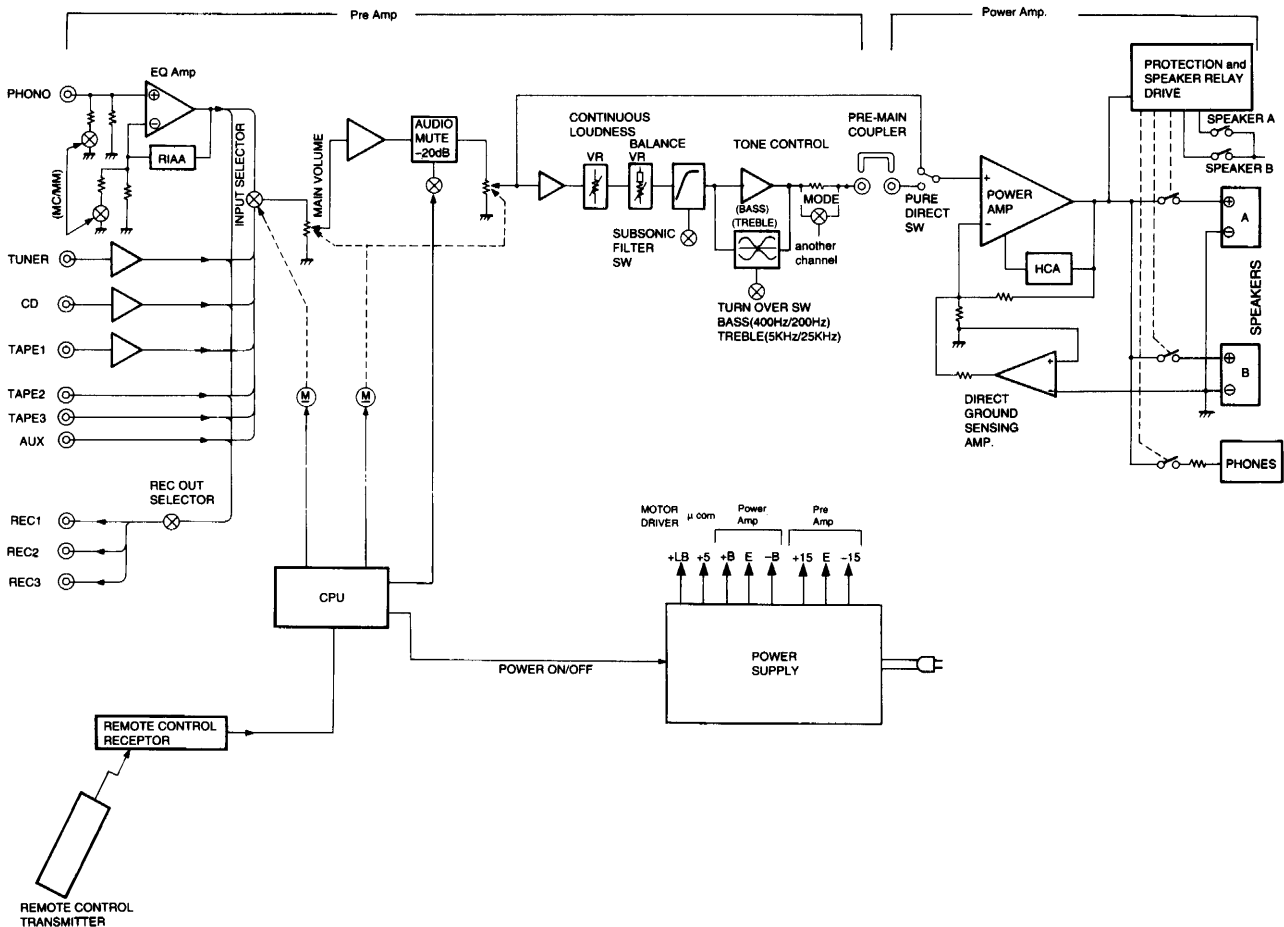
**外形寸法 (W × H × D)** .....473 × 171 × 448 mm

**重量** .....20 kg

**付属品** .....リモコン  
単 3 乾電池 2 本

参考仕様および外観は予告なく変更されることがございます。

# ブロックダイアグラム



# ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用頂けるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

## 保証期間

お買い上げ日より1年間です。

## 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

## 保証期間経過後の修理

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

## 補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年（テーブルデッキは6年）です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

## 持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

## 製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品名、製造番号などもあわせてお知らせください。

品名は本機背面パネル、製造番号は底面パネルに表示してあります。

## 外観部品の補修について

補修用性能部品以外の外観部品の補修については部品の性格上、補修ができない場合もございますので、事前に弊社サービス拠点にご相談ください。補修可能な場合は、事前の見積り等お客様へのご確認のもとに補修させていただきます。

## ヤマハ電気音響製品サービス拠点

（ヤマハAV製品の故障に関するご相談窓口および修理受付、修理品お預り窓口）

北海道	〒064	札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
		Tel(011)513-5036
仙台	〒983	仙台市若林区卸町5-7
		仙台卸商共同配送センター3F
		Tel(022)236-0249
新潟	〒950	新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F
		Tel(025)243-4321
東京	〒101	東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル
		Tel(03)3255-2241
首都圏	〒211	川崎市中原区木月1184
		Tel(044)434-3100
浜松	〒435	浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内
		Tel(053)465-1158
名古屋	〒454	名古屋市中川区玉川町2-1-2
		ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
		Tel(052)652-2230
大阪	〒565	吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)
		千里丘センター内
		Tel(06)877-5262
四国	〒760	高松市丸亀町8-7 ヤマハ(株)高松店内
		Tel(0878)22-3045
広島	〒731-01	広島市安佐南区西原2-27-39
		Tel(082)874-3787
九州	〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4
		Tel(092)472-2134

## お客様相談窓口

（ヤマハAV製品に対するお問い合わせ窓口）

東京	〒101	東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル4F
		東京事業所 Tel(03)3255-5691
		Tel(03)3255-6767
名古屋	〒460	名古屋市中区錦1丁目18-28
		名古屋営業所 Tel(052)232-5740
大阪	〒556	大阪市浪速区難波中1-13-17
		なんば辻本ニッセイビル
		大阪事業所 Tel(06)647-6411
本社	〒430	浜松市中沢町10-1
		AV機器事業部
		お客様相談センター
		Tel(053)460-3409

# YAMAHA

ヤマハ株式会社

〒430浜松市中沢町10-1

AV機器事業部

営業部 Tel(053)460-3451

品質保証室 Tel(053)460-3405

住所および電話番号は変更になることがあります。